第二章 第二章 第二章 第二章	第 第一 章 第二節	三	ニー序
即 霊木信仰と神仏習合	即 記念植樹の形態――記念樹・記念並木・記念林――	第1部 「記念植樹」とはなにか――形態と歴史的諸相―― 17本書の構成	研究の現状

第Ⅱ部 林学者本多静六の思想

79

節 東京山林学校と明治の林政	本 ド 本 ド 東 本 本 不 近 小 近 折 多 ク 多 イ 京 多 多 二 代 谷 世 原
* 本 ド 東 イ 京	יות יות יות יות וות יות יות יות יות יות
	יות יות יות יות יות
	節

221 221 297 282 274 262 255 252 242 236 225 213 209 204 2	第三節 御聖徳記念と即位の御大典記念	第二節 明治神宮造営における葬場殿址の記念樹	第一節 御聖徳記念と明治神宮	第二章 御聖徳と記念植樹――明治から大正へ――	小 括 明治期の学校樹栽に見る形と心	第五節 明治日本でなぜ学校樹栽が栄えたか		第三節 本多静六『學校樹栽造林法』にみる理念と方法		第一節 米国における学校樹栽活動の展開	第一章 学校教育と記念植樹	第Ⅲ部 「記念植樹」の近代日本――明治~大正~昭和の系譜―― 21	小 括 本多静六の記念植樹の特徴――生きたる記念碑――	第五節 記念植樹の広がり――宗教的教育と実践――	第四節 『植樹デーと植樹の功徳』にみる本多の人生哲学	多三金 本利のオペースで見る ラオグラッヨガル
---	--------------------	------------------------	----------------	-------------------------	--------------------	----------------------	--	---------------------------	--	---------------------	---------------	-----------------------------------	-----------------------------	--------------------------	----------------------------	-------------------------

	445	「土着化」した都市美運動	小括
	£ 428	東京の都市美運動における「植樹デー」	第四節
	417	日本の都市美協会の活動とその展開	第三節
	412	都市美運動の成立とその背景	第二節
	i i 406	関東大震災と帝都復興	第一節
: 405		帝都復興と都市美運動――都市緑化の理念と方法――	第四章
	394	平和と記念植樹――いのちの寿ぎ――	小 括
	378	平和記念東京博覧会と帝国森林会の記念樹	第五節
	371	帝国森林会における記念林の運営	第四節
	362	平和記念植樹の理念と方法	第三節
	347	帝国森林会の歴史と本多静六の位置	第二節
	344	帝国森林会の発足――大日本山林会とともに――・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第一節
: 343		平和と記念植樹――第一次世界大戦後の平和記念事業を主体に―	第三章
	329	明治神宮の森と不二道孝心講の記憶	小括
	316	明治神宮の森づくり――記念碑性を手がかりに――	第五節
	306	南方熊楠の批判	第四節

四	Ξ	\equiv	_	終	第六節	第五	第四	第三節	第二節	第一	第五章
荒	近代	山 の	記今	章	節	節	四節	節	節	節	
「荒れた国土に緑の晴れ着」――生き残った愛樹心――33	近代日本における記念植樹の系譜52	の信仰と本多静六の記念植樹52	記念植樹の心と形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	記念植樹と日本人――ひとはなぜ樹を植えるのか―― 523	忠霊と記念植樹——英霊に捧げる母の祈り—— 58	日本の戦時統制下における記念植樹――精神性と機能性―― 50	国際親善と記念植樹 492	桜の多摩川づくり――儀式と実践――49	「大多摩川愛桜会」の記念植樹――田園調布の桜――	皇紀二六〇〇年記念事業における植樹活動	「大記念植樹」の時代――昭和戦中期の時局を基軸に―― 45

索引(人名・事項)あとがき

記念植樹と日本近代-――林学者本多静六の思想と事績

[凡 例]

一、本書で用いる引用文については、原文を尊重しつつ最低限の句 一、本書で用いる引用文については「□」で、省略する場合は「……」で表した。

三、引用中には現代では不適当と思われる表現もあるが、あくまで表した。

と料としての正確性を期すことを優先し、あえて原文のままと した。

四

図版・資料の出典・所蔵は巻末の掲載図版一覧に記した。

し、それが行われた意図とその根底にある自然観を解明することを目的とする。 いう行為を、背景にある歴史事象と照合しながら、植樹に係る「農事性」、「政治性」、「儀礼性」を総合的に分析 本書は、近代日本社会において主に公式の場面で実施された「記念植樹」、すなわち「記念に樹を植える」と

念植樹と本多の二者を介して、「ひとはなぜ、樹木を植えるのか」という近代日本の人間文化を探究するもので る。言い換えれば本書は「記念植樹」を通して本多静六という一林学者の「人となり」を論じるものであり、記 からである。本多の思想と事績を論じることは、すなわち近代日本における「記念植樹」を論じることにも通じ れた記念植栽の方法論を構築し、それを奨励したのが本多を中心とする林学・林政の指導者にあると考えられる かなる形態で、どのような思想に基づくものかを検証する。なぜなら同時代において記念事業の一環として営ま 特に本書では東京帝国大学教授・本多静六の事績に焦点を当て、林学者の本多が理想とした「記念物」とはい

なぜ記念植樹か ―出版物や報道による社会への普及・啓発

ある。

樹という行為が、実は近代国家が形成されてゆくプロセスにおいて、権力の可視化を目的に— 「記念植樹」をとりあげるのか。それは今日において公私を問わずあらゆる場面で一般的となった記念植 -たとえば近代彫

がら、近代化の一牽引役としての役割を背負わされていたと推測されるからである。

は組み合わせられ、記念事業の一環として実施されていたと考えられるのである。 て記念植樹に分類され、奨励されていたことを意味する。すなわち用途に合わせていずれかが選択され、あるい の苗木に厳かに土をふる、といった儀式的な植樹法のみならず、意外にも成長した大木を移植する方法を用いる 「形を変えられ」と書いたのは、今日の我々がイメージするであろう記念植樹、つまりスコップを片手に一本 (列上植栽) や記念林 (集合体) といった実践的な造林計画もまた、かつては林学者や造園学者らによっ

資料や造林学者による著作の存在であり、第二に記念植樹という行為を特化しそれにニュース的価値を認め、 この仮説を裏付けるものとしては次の二つの根拠がある。それは第一に記念植樹を奨励する公的機関発行の諸

園と風景』に寄せた「記念樹の植栽と其の手入法」(一九三三年)、また紀元二六〇〇年記念における『皇紀二千(2) 動の一環として著された『植樹デーと植樹の功徳』(一九三一年)、本多が会長を務めた日本庭園協会機関誌 九一五年。以下、一名大木移植法を略)や『記念樹ノ保護手入法』(一九一六年)、都市の公共美を提唱する都市美運 明治天皇の御聖徳記念並びに即位の御大典記念事業の際に刊行された『記念植樹の手引 一名大木移植法』(一 年)をはじめ、渋沢栄一主催の『龍門雑誌』に掲載された「明治天皇記念 行道樹の植栽を勧む」(一九一三年)、 刊行されている。本多静六には、時の文部次官牧野伸顕の依頼によって書かれた『學校樹栽造林法全』(一八九九 からは、『記念植樹二関スル注意』(一九一四年)、『記念植樹』(一九一五年)、『御大禮記念林業』(一九一六年)等が いった記念事業にあわせて記念植樹を推進する著作を発行していた事実がある。一例をあげれば農商務省山林局 くを記事にしていた報道機関の存在である。 第一の点については、 農商務省山林局や当時を代表する林学者である本多静六が御聖徳や御大典、 帝都復興と

演会やラジオ放送等を通じて広く「記念植樹」の普及に努めていた。 六百年記念事業として 植樹の效用と植ゑ方』(一九四〇年)などがある。さらに本多の場合は紙媒体に限らず講

こうした著作は当時の社会でどの程度普及していたのであろうか。たとえば前掲の『記念植樹の手引』 の緒言

を参照すると次のようにある。

の望み足る矣。 得て本書を稿し印刷に附し以て右等応答に代へんと欲す。幸に記念樹其他大木移植の参考に資するあらば予 る一書あるも未だ大苗木殊に大木の移植法に就ては何等著書の看るべきものあるなし、乃ち玆に少許の閑を 植林其他一般森林の仕立方に就ては既に予の著はせる「造林学」の外、最近公にせる「実地造林の秘訣」な の光栄不過之と雖ども、而も予は殆ど之が応答に忙殺せられんとす。而して彼の小苗木を植付くる所の記念 御即位記念植樹及び明治神宮の献木又は一般記念植林等に関し、近時質問を寄せらるゝもの極めて多く、予

念植樹著作が一万部を越えて流通していたことがわかる。 植樹の手引なる一小冊子を稿し三浦書店の厚意により已に一万余を各地に配布せり」とあることから、 ある。これとあわせて『記念樹ノ保護手入法』も同様の理由により発行されたのだが、その緒言に、「先に記念 の質問が寄せられるので、今回この書の刊行をもってこれら記念植樹に関する質問への回答とする、というので つまり記念植樹についてはすでに「造林学」に関する著作に記したが、それでも本多が応じきれないほど多数

す」と記されているが、記念植樹について多くの質問が寄せられる事態や関連冊子の増刷といった需要の増加(6) かに重要視され、各地で隆盛していたかが理解されるであろう。 らうかがえるのは、 記念植樹に関する社会の関心の高さである。このような事情からも記念植樹という行為が

また同時期に発行された農商務省山林局

『記念植樹』の緒言においても「今回更に訂正補修して之を世に公に

る米国の樹栽日 (Arbor Day) の大正天皇)による駿州原町における松の植樹、 九)二月九日付には憲法発布奉祝行事としての桜の植樹、明治二七年(一八九四)二月二一日付には皇太子(のち 植える」、あるいは記念という言葉がなくとも「なにかの記念」で植樹したという記事も含めた)、たとえば読売新聞明治 ど、大久保利通内務卿による植樹の奨励があり、それ以降、植樹に関するあらゆる報道がみられるようになる。(※) 初年に指示された「神社寺院の修理、境内伐木に就ての心得」をはじめ、各府県における植樹計画の提出要請 一二年(一八七九)八月二七日付には、上野公園で行われたグラント将軍訪日記念植樹式、明治二二年(一八八 大イベントのほかに、一般民衆による植樹の記事を含めると厖大な数になる。そのきっかけの一つとして、明治 これらを記念植樹に集約していくつか紹介すると(記念植樹というタームを直接使っている記事をはじめ、「記念に の説明がある。内地に限らず外地においても大正、昭和を通して同様の傾向が示 翌明治二八年六月五日、六日にかけては牧野伸顕文部次官によ

これらの記事から確認できよう。こうした記事は、記念植樹という行為を社会に普及させるうえで報道機関も 京朝日)といった話題が逐一報道されるなど、記念植樹がいかに注目され、広く啓発されていたかという事実が 四月五日付読売)という記事や、グラント将軍訪日記念樹を忘れ得ぬために記念碑を建立(昭和五年五月三一日付東 という樹木の生存に関わるニュースもある。その他にも、奈良で植樹中に古鏡や曲玉が発見された(エロ) こうした記事の中には記念植樹を行った者を賞賛する内容の他に、記念樹が伐採された、あるいは枯死した、 (明治一四年

うに万葉集を紐解くと、忍び草として植栽された記念の樹木や草花が数多く詠まれている。東北のある地方では、 ところで近代に限らず、前近代社会においても記念に花木を植えることはあった。第1部第二章でも述べるよ 役買っていたと推察するに十分であろう。

記念植樹研究のはじまりはメメント・モリにある。そのあたりをお話ししておきたい。

その空虚さにも悩まされるようになった。人間は死に近づくことは出来るがこれを体験することは出来な 研究室には記念像研究の木下直之先生がいらした。しかしながら死を捉えようとする一方、摑み所のない 先生は納得してくださった。 いのではないかと思うようになり、「死はわかりません」と恐る恐る指導の長島弘明先生にお伝えした。 いというように、それは「説明し得ないもの」である。死の表象といってもあくまで想像の世界にすぎな のである。死の記念碑性をテーマに修士論文をまとめようと東京大学の文化資源学研究室に進学した。同 ャラリーで見たハンス・ホルバインの『大使たち』の画面に描き込まれた「髑髏」が長く心を捉えていた 研究テーマの出発点は「死の表象」であった。一○代の頃、ロンドンの中心に位置するナショナル

ば生きたる記念碑、生きたるメメント・モリの例になるだろうと思いいたったのである。 ものは何だろうかと考えた。出会ったのが老樹・巨樹などの記念樹であった。これなら目に見える、 そこでまず発想を転換させて、「死」から「生」へと目を向け直して、逆にこの世で最も長寿たり得る

者から見て私の好むものとは何だろうということも気になり、その週末に出かけてみた。すると先生の仰 入ると思うから行ってみなさい」と勧めてくださった。もともと興味のある場所だったし、それよりも他 る青山の聖徳記念絵画館。残念ながらその時は参加できなかったが、木下先生が「岡本さん、たぶん気に そのような折、ゼミの一環で恒例のフィールド・ワークがあった。訪問先は本書でも重要な位置を占め

本さん、大事なところを見ていない、あそこは裏にまわって楠を見ないと、あの一本を基点に街がつくら るとおり、とても居心地のよい空間に感じられた。さっそくあれこれレポートを書いて提出すると、「岡

れたのだから」。

恐る恐る指導の渡辺裕先生にお伝えした。先生は納得してくださった。上記のエピソードを先生方は覚え ず出会ったのがこの森をつくった本多静六だった。こんな面白い人物がいたのかと、陸橋を渡って農学部 べておられた。 センター(日文研)を基盤機関とする総合研究大学院大学に進み、農学がご専門の白幡洋三郎先生のご指 ら昭和戦中期にいたる日本近代の記念植樹文化を総合的に論じてみようと野望を抱き、国際日本文化研究 な緑化という要素や、儀式としての宗教的・儀礼的な要素についてである。そこで博士論文では ておいでではあるまいが、このように先生方のご指導とご寛容のもとで修士論文を書き上げたのである。 要素はこのとき見出されたものである。こうして死から生へ、西洋から東洋へ、と大幅なテーマの変更を 西洋文明の積極的な導入者として見られがちであった本多を再検討すべく、本書の基層となるさまざまな さらに調査を重ねると、本多の生家・折原家が代々山岳信仰「富士講」にゆかりあることもわかってきた。 とがわかった。しかも彼は地域の人びとに愛着ある老樹・巨木をまさに「生きたる記念碑」と呼んでいた。 図書館に通い、本多について調査を進めた。すると本多が「記念植樹」に関する著作を多数書いていたこ だが修論では書ききれないこともあった。それは記念に樹木を植えるという行為に係る農事的・実践的 ちょうど記念樹について考え始めていた頃である。この言葉に閃き、早速明治神宮を調べてみると、ま 白幡先生は また記念植樹をめぐる儀礼性や宗教性、自然思想については末木文美士先生、 『近代都市公園史の研究―欧化の系譜』(一九九五年)の中で本多静六につい 明治

事業としてなされた植栽活動の政治的・法的な側面については瀧井一博先生から多くを教えていただいた。

交流を通して植樹の文化史研究に国際的な視点を導入する機会にもなった。 ある。また日文研には多くの外国人研究者が滞在しており、そこで開かれる共同研究会は各国の先生との

会)にご足労のうえ、さらに今後の糧となるような貴重なご教示を与えてくださり、とても有り難かった。 本多健一先生とご親交の深かった平川祐弘先生は、東京大学で行われた博士論文研究発表会(文化資源学 論文とはなにか」をご講義くださったことは、何よりも励みとなった。また学生時代より本多の直孫の故 いよいよ執筆に取り掛かる際、本多静六の曾孫にあたる理学博士遠山益先生が、お忙しい合間に「博士

そして、これからの明治文化研究の課題を発展させるきっかけとなるご助言をくださった大久保利泰様に

も感謝の気持ちをお伝えしたい。

折原家当代折原金吾様、多摩川浅間神社宮司北川憲史様、総本山金剛峯寺、総本山善通寺、大日本山林会、 研究所の今泉宜子様、総本山醍醐寺の仲田順英様をはじめ、渋沢栄一記念財団 謝の意を申し上げたいと思う。なお、本書では叙述や論旨の平明さを目指したが、筆者の力不足ゆえ、い 史」をまとめることができたのは、実に多くの方々のご協力とご支援によるもので、ここにあらためて感 尽してくださった日文研出版編集室ならびに研究支援係の皆様にも御礼を述べたい。このように「死」も わせて、初めての単著となる本書が日文研叢書として出版されるにあたり、数々の事務的な手続きに力を ター分館郷土資料館、久喜市本多静六記念館、日文研図書館の皆様には心より御礼の言葉を記したい。あ 徳川林政史研究所、日本庭園協会、富山市役所細入総合行政センター産業建設課、 - 生」も包括した「いのち」の記念碑性をテーマに、本多静六を主軸として「記念植樹の近代日本文化 多分野に及ぶ研究上、貴重な史料の閲覧やご提供、現地調査でご協力くださった明治神宮国際神道文化 (当時)の小出いずみ様 川口市立文化財セン

たらないところは読者の御叱正を乞うこととしたい。

基本の三つが大切であると実感した。思えば、京都で体調が改善されたといっても過言ではない。日本に 京都があってよかった、とは本当であった。 生へと目を向けること、それは大事に生きることであり、博士論文の執筆という持久戦に挑むには、この をみることもあった。そのようなとき、新鮮な空気と日光、そして食の三つが私を支えてくれた。死から しかしながら万事順調に進んだというわけでもなく、一時体調を崩して研究を休まざるを得ない憂き目

ている。この一冊を、私の大事な家族と、「いのち」の育みに関心のあるすべての人びとに捧げたい。 さんの丁寧で行き届いたお仕事に導かれて今日、本書をお送りできることはこの上ない喜びである。 そして、いつどのようなときも研究に協力的で、常に私を見守り支え続けてくれる家族には深く感謝 今回、本書の編集を取りまとめてくださった思文閣出版の田中峰人さんもまた京都の恩人である。 田中

二〇一六年 申年 桜月

岡本貴久子

60,67

『明治天皇紀』

122

‡)

森づくりは科学であり芸術である

162, 172, 215, 318

文部省 27, 161, 224, 236, 241, 256, 263

ゃ

ヤナギ 9, 25, 68, 189, 199, 203, 433, 464

ゆ

『遊仙窟』

19, 69

ょ

『洋行日誌 巻一·二』 163,170 吉野山 63,66,212,479

「吉野山の桜制復古」 212

余徳 103, 124, 130, 133, 166, 179, 354, **358**, 362, 395

読売新聞(社) 6,44,162,226,239,257,

263, 280, 298, 303, 389, 467, 495, 499

憑代 35, 46, 53, 58, 214, 308, 511, 523

6)

『龍門雑誌』 4, 196, 252, 278, 299

れ

霊木 20,60,63,67,189,246,525

霊木化現仏

レクレーション 170, 214, **252**, 258, 262, 311, 369, 527

ろ

老樹 10, 32, 39, 43, 61, 67, 194, **201**, 207, 280, 283, 295, 315, 414, 439, 525

わ

和歌山(紀伊国) 56, 58, 202, 256, 306, 312 和歌山城址 83 『和州巡覧記』 65, 212 \mathcal{O}

農商務省(山林局) 4, 12, 21, 127, 154, 157, 192, 202, 213, 236, 242, 254, 295, 298, 303, 321, 344, 346, 380, 384, 429, 526 農林省 263, 429, 431 野宮 47, 59

は

パウルッチ桜 498 博覧会 129, 198, 235, 236, 283, 299, 348, 352, 378, **382**, 386, 389, 392, 412, 472, 501, 530 花供 65, 511 馬場大門ケヤキ並木 35 浜離宮庭園 7

ひ

東日本大震災 24,444 氷川神社 113,302 ヒノキ 33,55,57,158,243,249,317,320, 431,437,534 日比谷公園 81,171,199,203,210,314, 324,350,410,432,435,482,495,504,529 ヒマラヤシーダー 201 神籬 53,58,440 百年の計 212,258,349,358,362,378,384, 395,469,503,528

ふ

9, 25, 27, 33, 37, 164, 190, 197, 203,

207, 241, 277, 280, 283, 298, 300, 309, 315, 320, 384, 413, 420, 427, 459, 469, 474, 478, 489, 501, 503, 506, 524, 532 富士 88, 470, 479, 485, 489 富士講 85, 315, 469 富士山信仰 12, 86, 88, 166, 195 富士塚 95 不二道 12, 80, 85, 97, 101, 111, 153, 166, 173, 180, 187, 195, 213, 251, 309, 395, 524, 528

不二道孝心講

風致

12, 85, 114, 115, 118, 274, 316, 326, 528 『不二道孝心講』 124, 126 『不盡道別 全』 115 プロテスタンティズム 174, 227, 259, 528 文化財保護 33, 35, 37, 241

 \wedge

平和記念植樹 192, 200, 294, 362, 364, 366, 416, 429, 456, 530 平和記念東京博覧会 362, 378, 379, 386, 472, 530 『平和記念林業』 192, 366

ほ

保安林 37, 240, 246, 384 防空 456, 501, 505, 508, 532 防風雪林(鉄道防雪林) 44, 81, 179, 207 北海道 257, 352, 388 ポプラ 433 本覚思想 63, 68, 105

ま

マツ(クロマツも参照) 6,9,23,25,32,46,59,68,130,199,246,249,256,257,302,305,317,320,411,434,437,467,484 満濃池 43 万葉集 6,45,49,58,69,88,523

み

見世物 96, 170, 390 「緑の国勢調査」 31 都新聞(社) 509, 510 ミュンヘン大学 80, 83, 172, 174, 177, 407 三輪山 50, 54, 309 民部省 154

む

『牟婁新報』 306, 312

め

迷彩(植栽) 505, 508, 532 明治神宮 103, 131, 274, 282, 313, 344, 380, 409, 436, 463, 471, 489 明治神宮外苑 25, 194, 283, 294, 323, 461 明治神宮献木奉告祭 406, 438, 442 明治神宮の森

27, 194, 263, 309, **316**, 325, 465, 535 『明治神宮奉賛会通信』 285, 295, 323

24, 42, 60, 63, 111, 115, 209, 444, 525 天然記念物 34, 83, 280, 315, 414 大多摩川愛桜会 374, 469, 474, 479, 484, 『天然紀念物と老樹名木』 486, 489, 492, 496, 500, 504, 531 天然更新 317.320 大東京 天分 94, 120, 125, 132, 251, 262, 524 406, 412, 420, 423, 426, 442, 470, 489, 530 ۲ 第二次世界大戦 354, 377, 526, 536 大日本山林会 21, 66, 157, 192, 212, 227, 東京山林学校 230, 242, 281, 294, 344, 346, 347, 352, 356, 12, 80, 154, 159, 180, 372, 384 361, 367, 370, 372, 376, 379, 382, 385, 392, 東京水源林 83, 263, 535 394, 405, 416, 429, 430, 434, 485, 524, 530 東京日日新聞 487 『大日本山林會報』 東京農業大学 349, 356 209, 230, 243, 247, 256, 259, 319 東郷桜 480, 498 大日本水産会 347, 356 東寺 42.111 大日本農会 347, 356, 373 動物園 163, 170, 313 『大日本老樹名木誌』 32, 35, 202 道路祭 442, 529 大木(木材)供出 篤農家 122, 125, 156, 166 446, 469, 534 大木の移植 21, 319, 324, 439 独立自強 203.253 当麻寺 169, 214, 254, 311 66 登山 『太陽』 192, 243, 409, 412, 416 都市融 416, 436 太政官布告第16号 223 『都市美』 415, 417, 507 多摩川川沿公園計画 477 都市美運動 4, 9, 192, 204, 213, 235, 253, 多摩川浅間神社 301, 405, 412, 420, 426, 428, 445, 470, 472, 95, 469, 479, 482, 484, 496, 500, 532 476, 489, 504, 529 都市美協会(都市美研究会) 199, 205, 281, 多摩御陵 25, 433, 488 318, 347, 352, 370, 405, 415, 417, 426, 429, 5 436, 438, 442, 461, 477, 485, 507, 529 43, 104, 238, 260, 346 鳥総立 27, 49, 69, 214, 523 治山治水 忠霊(塔) 436, 446, 456, 508, 532 な 朝鮮総督府 352, 368, 429 内務省 24.44.154.242.256.279.321.383. 422, 462, 475, 482, 489, 507 土持 88, 103, 117, 119, 130, 133, 167, 327. 内務省樹木試験場 154 329, 528, 535 長崎 44, 89, 100, 115, 303 長崎公園 377.536 7 に 帝国森林会 20, 21, 66, 192, 195, 200, 281, 294, 344, 346, 347, 351, 354, 356, 360, 362, 178, 224, 256, 308, 367, 456, 502 日露戦争 366, 369, 371, 378, 382, 389, 392, 394, 405, 日光 7, 25, 97, 121, 123, 301, 317 416, 429, 433, 458, 477, 530 日光杉並木 25, 301 日本庭園協会(庭園協会) 4,66,192,203, 『帝国森林會々報』 348, 371 『帝国森林会史』 355, 361, 372 280, 315, 347, 348, 351, 405, 409, 416, 417,

406, 407

469, 474, 475, 489, 529

197, 358, 413, 426, 469, 470, 474, 529

帝都復興院

田園調布

田園都市

62.89

438, 468, 476, 480, 485, 492, 495, 501, 507

『日本霊異記』

『櫻の多摩川』 482, 492	新宿御苑 26
札幌農学校 227	神体林・神体山 58,310
三会(堂) 346, 347, 350, 356, 384	神道国教化
山岳信仰 60, 85, 88, 116, 153, 213, 223,	12, 41, 85, 111, 113, 115, 126, 244, 329
274, 309, 427, 444, 524, 529	神仏習合 41,58,60,533
山林都市 426, 471	神仏分離(令) 41, 113, 117
L	『神變』 209
O	神木 20, 35, 45, 53, 56 , 61, 64, 188, 202,
シイ 33, 317, 320, 464	324, 379, 389 , 392, 439, 469, 511, 525, 530
GHQ 362, 526	「森林の歌」 369, 395
『史學雑誌』 37	森林法 37, 240, 262, 352, 384, 429
シキミ 511,533	『森林家必携』 359
時処位 260, 419	d d
始植式 373,524	y
『至誠報国不二道孝心講土持御恵簿』	水源涵養
120, 123, 130	43, 206, 238, 382, 384, 429, 431, 528
史蹟名勝天然記念物 34,83,281	スギ 33, 36, 49, 56, 58, 179, 243, 248, 304,
史蹟名勝天然紀念物保存協会	308, 317, 390, 431
37 , 246, 278, 296, 303, 315, 485	素戔嗚尊 36, 41, 56, 296, 523
実行教(実行社) 114, 115, 122	せ せ
実修実証 63,444,525	_
実践道徳 86, 101, 180, 251, 260, 528	生死観 107, 214, 536
四分の一貯金 133, 178, 354	聖書 172, 233
ジャイアント・セコイア 201, 232	聖徳記念絵画館 25, 285, 287, 288, 291, 296
シャクナゲ 64,525	世界遺産 24
「社寺風致林論」 190,309	全国植樹祭 22, 27, 370, 373, 431, 524
社寺林 54, 194, 211, 240, 309, 469	戦時森林資源造成法 534
修学の記念 244, 250 , 429, 527	善 善 差 通 寺
『修験』 66	7
修験道 60, 63, 89, 113, 209, 511	
種子(籾種)交換	増上寺 227
124, 127, 130, 165 , 172, 214, 255, 492	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282 , 283 , 287 ,
124, 127, 130, 165 , 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528
124, 127, 130, 165 , 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 188 「增訂林政學」 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405,	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 188 「增訂林政學」 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459 「植樹デー(樹裁日)と植樹の秘訣」192, 435	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523 た
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459 「植樹デー(樹裁日)と植樹の秘訣」192, 435 『植樹デーと植樹の功徳』 4, 80, 192, 204, 435	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523 た ターラント(高等山林学校)
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459 「植樹デー(樹裁日)と植樹の秘訣」192, 435 『植樹デーと植樹の功徳』 4, 80, 192, 204, 435 植樹の功徳 187, 209, 233, 395, 472, 536	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523 た
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459 「植樹デー(樹裁日)と植樹の秘訣」192, 435 『植樹デーと植樹の功徳』 4, 80, 192, 204, 435 植樹の功徳 187, 209, 233, 395, 472, 536 『殖林漫語』 226, 239	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523 た ターラント(高等山林学校) 157, 163, 165, 168, 172, 318, 414 第一次世界大戦
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459 「植樹デーと植樹の功徳』 4, 80, 192, 204, 435 植樹の功徳 187, 209, 233, 395, 472, 536 『殖林漫語』 226, 239 『真言宗年表』 42, 111	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523 た ターラント(高等山林学校) 157, 163, 165, 168, 172, 318, 414 第一次世界大戦 292, 344, 347, 363, 371, 379, 394, 416, 530
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459 「植樹デーと植樹の功徳』 4, 80, 192, 204, 435 植樹の功徳 187, 209, 233, 395, 472, 536 『殖林漫語』 226, 239 『眞言宗年表』 42, 111 真言密教 41, 60, 525	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523 た 9-ラント(高等山林学校) 157, 163, 165, 168, 172, 318, 414 第一次世界大戦 292, 344, 347, 363, 371, 379, 394, 416, 530 大元帥御修法 42, 111
124, 127, 130, 165, 172, 214, 255, 492 『樹木の美性と愛護』 8, 23, 502 狩猟 50, 159, 168, 386 唱歌 238, 258, 369, 374, 495 植樹デー(植樹祭) 204, 213, 318, 370, 405, 416, 417, 428, 432, 438, 441, 459 「植樹デーと植樹の功徳』 4, 80, 192, 204, 435 植樹の功徳 187, 209, 233, 395, 472, 536 『殖林漫語』 226, 239 『真言宗年表』 42, 111	葬場殿址 194, 275, 278, 281, 282, 283, 287, 288, 291, 294, 299, 316, 329, 462, 528 『増訂林政學』 188 草木国土悉皆成仏 63, 106, 443 草木成仏説 68, 105 杣 12, 45, 49, 67, 69, 200, 252, 523 た ターラント(高等山林学校) 157, 163, 165, 168, 172, 318, 414 第一次世界大戦 292, 344, 347, 363, 371, 379, 394, 416, 530

489, 493, 524 『記念植樹の手引 一名大木移植法』 4. 21. 80. 192. 292. 297. 302. 319. 321. 324. 公園 21.44.81.86.133.171.193.197.202. 366 205, 210, 223, 234, 252, 280, 298, 301, 311, 『記念樹ノ保護手入法』 4, 192, 298 351, 368, 408, 413, 418, 423, 426, 462, 468, 『記念植樹』 472, 477, 501, 508, 528 4, 22, 192, 197, 202, 295, 298, 304 皇紀二六○○年記念 『記念植樹ニ関スル注意』 4, 372, 456, 458, 467, 501, 504, 531 4.192 記念碑·記念像 4, 6, 10, 20, 43, 193, 295, 『皇紀二千六百年記念事業として 植樹の 376, 378, 435, 479, 501, 536 效用と植ゑ方』 4, 192, 458 記念碑性 9, 27, 165, 168, 193, 200, 223, 皇居浩営 122, 128, 131, 327 245, 255, 262, 316, 362, 377, 524, 527 公徳心 197, 209, 259, 300, 532 記念林 4.9.21.27.191.199.214.274.282. 幸福寺 87, 171, 202 297, 299, 304, 316, 329, 361, 371, 372, 405, 『幸福とは何ぞや 子孫の幸福と努力主義』 435, 462, 467, 501, 507, 524 宮城外苑 コウヤマキ 27, 158, 202, 411 457, 459, 460, 463, 466, 494, 504, 531 国土緑化運動 362, 446, 537 行帳 国民外交 456, 492, 496, 500, 532 103, 166 教派神道 113, 125 國民新聞 460,510 巨樹 10.31.57.67.202.263.308.323.413 国有林 157, 173, 240, 315 巨樹・巨木林フォローアップ調査 28,31 国立公園 226, 253, 311, 352, 418 165, 234, 255 『御決定之巻』 キリスト教 92.99 清澄山 161, 246, 262, 355, 372 故事伝承 33, 34, 39, 188 金峯山 古社寺保存法 37, 241 60 『御即位記念植樹の勸め』 21, 192, 304, 352, 434 久喜市菖蒲町(河原井) 『御大禮記念林業』 4. 192, 304, 368 国家経済学 12.80.158.164.172.196.251 11, 86, 121, 248, 329, 528 クス 7, 32, 56, 202, 294, 305, 308, 317, 320, 後七日御修法 42, 111 329, 464, 528 木花開耶姫命 50, 470, 498, 532 宮内省 24, 347, 459 コマーシャリズム 378, 389, 531 グラント将軍訪日記念 駒場農学校 154 6, 23, 201, 223, 294, 374, 377, 435, 479, 536 御料林 157, 240, 325 クロマツ 7.130,243,246,249,317,321. 金剛峯寺 24, 27, 60, 68, 213, 443, 525 411, 464, 477 × け サイカチ 171.202 埼玉学生誘掖会 継承樹 24, 377, 536 358 ゲッケイジュ 201, 305, 323, 483 蔵王権現 60, 63, 212, 525 ケヤキ サカキ 47, 51, 59, 320, 439 32, 35, 243, 246, 249, 301, 320, 323, 464 『作庭記』 203.279 健康第一主義 サクラ 6, 9, 10, 24, 32, 36, 38, 44, 63, 68, 195, 203, **252**, 413, 416, 437, 506, 532 256, 430, 433, 438, 456, 464, 467, **469**, 477.

献木 5, 22, 27, 66, 306, 316, **318**, 438, 446, 457, **463**, 466, 494, 526, 528, 531

476, 480, 485

489, 492, 496, 509, 525, 532

桜の会

【事項】

あ

Arbor Day 6, 224, 225, 227, 236, 384, 414, 527 愛桜碑 484, 491 爱林日記念 10, 213, 362, 370, 373, 405, **430**, 446, 458, 501, 530, 533 アオギリ 199, 249 浅草公園 410 朝日新聞(社)(東京・大阪) 24, 122, 179, 228, 351, 355, 367, 369, 380, 418, 435, 457, 463, 466, 474, 475, 479, 484, 494, 498 アルピニズム 170, 214, **254**, 527 荒れた国土に緑の晴れ着 263, 533

L٦

20, 33, 39, 45, 172, 193,

201, 208, 213, 299, 377, 523 伊耶那岐 57, 101 伊耶那美 57, 101 伊勢神宮 53, 317 五十猛命 56, 68, 523 一億記念樹 467, 531, 533 『一字不説之巻』 94, 99

イチョウ 7, 23, 26, 32, 35, 199, 202, 249, 263, 283, 303, 305, 323, 324, 410, 433, 444, 467, 474, 535

入会

生きたる記念碑

158, 169, 368

う

植初式 374, 479, 484, 497, 532 上野公園 6, 126, 201, 379, 479 ウメ

44, 47, 48, 68, 189, 478, 484, 494, 510, 533

え

エーベルスワルデ高等山林学校

154, 159, 164

煙害・煤煙

194, 200, 277, 289, 292, 296, 297, 317

演習林 161, 178, 242, **246**, 250, 263, 355, 372, 535

お

欧化 9,172,201,222,296,509 大國魂神社 35,303 大阪毎日新聞 411 和尚塚記念林 373 『御添書之巻』 99,110 斧入れ 68,213,525 お振りかわり 93,104,116

か

開拓使 227 カイノキ 23 街路樹(擁道樹) 8, 22, 25, 199, 201, 301, 408, 410, 412, 418, 433, 442, 507 カエデ(モミヂ)

9, 44, 66, 430, 464, 484, 494 『角行藤仏的記』 89 カシ 317, 320, 464 過怠植 158, 468 学校基本財産 178, 244, 260, 429, 527 学校樹裁 27, 224, 225, 236, 240, 252, 255, 262, 293, 300, 369, 378, 410, 414, 429, 458, 527

『學校樹裁造林法全』

4, 192, 224, 238, 242, 411, 527
『學校樹裁法講話』 258
学校植林コンクール 263, 535
金鑚神社 309 上高地 315, 472 神さぶ 54, 69, 526 蒲生の大樟 33, 202, 296 川口市(旧鳩ヶ谷市) 86, 97, 111, 132, 327

き

木産み 53,69,105,200,214,523 記紀神話(古事記・日本書紀)

将進植 47, 49, 55, 56, 116 22, 25, 35, 66, 212, 318 木曾五木 158 木曾式伐木運材図会 51 記念行道樹(並木) 4, 9, 21, 191, 196, 214, 274, 282, 297, 299, 306, 316, 329, 405, 434,

226, 227, 229, 236, 240, 527	243, 247, 259, 414,	右田半四郎 溝口白羊 南方熊楠		391, 486 83, 292, 326 06, 411, 502
は		三好学		37, 303, 486
濱尾新 原熙	26, 159, 247 279, 281, 287, 316		む	
ハルティヒ(Robert Hart ハワード(Ebenezer How		村上光清村上龍太郎		90 431
Ŭ.			め	
平田篤胤	115	明治天皇 4, 25, 3 282, 297, 299, 38		
福田徳三	176		も	
福羽逸人 伏見宮貞愛親王	276 157, 279, 282, 373	モルトン(Sterling		39, 259, 414
藤山雷太 藤原銀次郎	382, 501		ゃ	
	8, 357, 360, 394, 530 Brentano) 83, 174, 177	山岡鉄舟 山県有朋 山口鋭之助		125 158, 282 318, 486
ほ			Ф	
星亨 本郷高徳	324 203, 279, 316	ユーダイヒ(Fried	rich Judeich) 61, 164, 165, 1	69, 179, 215
本多晋 本多詮子	161, 170, 176 161, 173		ょ	
	101, 173	 吉田清成		227
*			Ġ	
前田正名 牧野伸顕 4.124.192.	162 224, 225, 236 , 242,	ラグーザ(Vincenz	-	62
256, 429, 527	224, 220, 200, 242,	y v v incent	る Ragusa)	02
益田孝 344, 346, 351, 353			_	44.0
松方正義 松田秀雄	236, 240, 282 421, 470	ルドルフ(Ernst F	(udorff)	413
松野礀	154, 159, 170, 372		わ	
H		和田國次郎		431
三浦伊八郎	20, 353, 356, 361			

lt						
ケプロン(Horace Capron) 156, 227						
2						
古在由直 179						
小谷三志 12,85,90,97,101,111,116,125,						
129, 134, 166, 214, 327, 329, 536 コッタ (Heinrich Cotta)						
163, 172, 179, 215, 318, 414, 528						
後藤新平 381,407						
小林政一 289, 293 28, 414						
コンヴェンツ (Hugo Conwentz) 38,414						
č						
西園寺公望 163, 198, 275, 307						
阪谷芳郎 275, 290, 297, 415, 428, 435 佐藤功一 350, 425, 461						
佐野常民 236						
佐野利器 287, 288, 350, 407, 461						
ザリッシュ(Heinrich von Salisch) 414						
参行禄王 98, 109						
L						
志賀重昴 254						
志賀泰山 157, 163, 173, 247, 344, 384						
食行身禄(伊藤伊兵衛) 85, 90, 97, 101, 104, 109, 134						
字野半 114, 117						
品川弥二郎 157, 178, 306, 347						
柴田花守 91, 115, 125						
渋沢栄一 4, 81, 179, 192, 223, 261, 275, 278, 281 , 294, 297, 316, 326, 330, 358, 374,						
381, 426, 435, 469, 470, 479, 529						
昭憲皇太后 122, 162, 279, 298, 328						
聖宝(理源大師) 60,444,525						
昭和天皇(皇太子裕仁親王) 23,301,303,						
307, 328, 364, 376, 424, 433, 479, 489, 534						

せ

388.393

123

59

62

蘭部一郎 486 た 大正天皇(皇太子嘉仁親王) 6,23,25,130, 192, 274, 282, 297, 301, 302, 433, 528 高田藤四郎 95 武井守正 160, 344, 346, 367, 369, 380, 391 田阪美徳 26, 295, 438 辰野金吾 81, 314 田中芳男 38, 392 田辺十郎右衛門 92 田村剛 204, 279, 285, 426, 461, 486, 501, 504 田村虎蔵 370 つ 塚本靖 287, 415, 427, 437 津田仙 9, 25, 201, 215, 223, 296, 410, 483 7 貞明皇后 443 ۲ 東郷平八郎 374, 479, 482, 497, 532 徳川家達 276, 282, 291, 295, 297 徳川宗敬 439 徳川頼倫 38, 303, 312 徳大寺行雅 42, 100, 111, 115, 119 橡内吉胤 415, 425, 486 富田禮彦 51 な 長岡安平 26, 197, 314 永田秀次郎 422, 424, 442, 489 中野武営 275, 358, 471 中村彌六 159, 173 梨本宮守正王 373 に 二宮尊徳 102, 125, 260, 528 の

ノースロップ(Birdsey G. Northrop) 224,

そ

白澤保美

白根多助

世阿弥元清

千利休

索引

*採録語句が章・節・項の見出しに含まれる場合は該当頁を太字にし、主にそ の章・節・項内の初出を掲載した。

【人 名】 あ	荻野吟子 162 尾崎行雄 435, 483 折下吉延 132, 279, 297, 328 折原金吾 86, 131, 155, 166 折原友右衛門 12, 85, 90, 115, 116, 119, 123, 126, 128, 131, 133, 135, 153, 157, 166,
青木周蔵 158	214, 328, 329, 358, 528, 535 オルムステッド(Frederick L. Olmsted) 235, 253, 413
ける 伊澤修二 369 一行はな 98 井出喜重 226, 239 伊東忠太 276, 280, 287, 461 井上友一 276, 318, 321 井下清 280, 301, 446, 461, 466, 486, 495, 505 伊藤博文 37 岩倉具視 37	か 貝原益軒 66,212 角行 88,101,108,134 賀茂真淵 45,48 川瀬善太郎 159,276,287,313,316,345,380,392,411 閑院宮載仁親王 295,381
う う	き
ヴェーバー(Max Weber) 174 上杉鷹山 239, 260, 528 上原敬二 8, 22, 187, 204, 279, 317, 418, 483, 486, 501, 505	北白川宮能久親王 154,373 行基 7,61,67 桐鳥像一 344,346,382 今上天皇 534 金原明善 158
字佐美勝夫 381 内村鑑三 228, 234, 239	<
え 役行者 60,63,89,96,444,525 お 大久保利武 大久保利通 大魚保利通 大熊氏廣 大隈重信 大熊養太郎 240,276,317 122,125,128,156,166,326	空海(弘法大師) 24, 35, 41, 43, 60, 68, 99, 105, 107, 112, 444, 484, 525, 536 久邇宮良子女王 23 熊沢蕃山 176, 260, 419, 528 クラーク(William S. Clark) 228, 234 グラント(Ulysses S. Grant) 6, 23, 201, 223, 226, 232, 294, 374, 377, 435, 479, 536 黒板勝美 37, 39 黒田清隆 227 黒田朋信(鵬心) 199, 419, 486
大伴旅人 46,533	

46, 49

大伴家持

◎著者紹介◎

岡本貴久子 Okamoto Kikuko

国際日本文化研究センター共同研究員.

東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了,総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程修了,博士(学術).所属学会は文化資源学会,美術史学会,生き物文化誌学会.

〔主要著作〕

"A Cultural History of Planting Memorial Trees in Modern Japan: With a Focus on General Grant in 1879"(『総研大文化科学研究』、2013年),「帝都復興期の都市美運動における儀礼性に関する考察――「植樹デー」の活動分析を中心に」(『文化資源學』、2015年),「空海と山川――「いのち」を治む」(末木文美士編『比較思想からみた日本仏教』山喜房佛書林、2015年),共著で末木文美士・岡本貴久子「近代日本の自然観――記念樹をめぐる思想とその背景」(秋道智彌編『日本の環境思想の基層――人文知からの問い』岩波書店、2012年)ほか.

日文研叢書

きねんしょくじゅ にほんきんだい 記念 植 樹と日本近代 りがくしゃほんだからし、そうしとも 一・林学者本多静六の思想と事績――

2016(平成28)年3月31日発行

定価: 本体9,000円(税別)

著 者 岡本貴久子

発行者 田中 大

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装 幀 上野かおる (鷺草デザイン事務所)

印 刷 亜細亜印刷株式会社

発行所 株式会社 思文閣出版